

提出 順番	No. 7	令和 8 年 8 月 24 日 午前・午後 2 時 53 分受領
----------	----------	-------------------------------------

令和 8 年 8 月 24 日

幕別町議会議員 寺林 俊幸 様

幕別町議会議員 荒 貴賀



一般質問通告書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 住民と共に平和活動の推進を	幕別町平和非核宣言が昭和60年12月23日に制定されてから41年余が経過しました。この宣言は「世界の平和と安全を実現することは人類共通の願いである」という一節から始まり、非核三原則を厳格に守ること、美しい郷土の自然と豊かな文化を守ること、そして平和な未来を子供たちに引き継ぐことが私たちの責任と義務であり、幸せな町民生活を守る決意であることを表明しています。ロシアによるウクライナ侵攻から4年余が過ぎましたが、未だ戦争終結の兆しは見えません。国を追われた人々や尊い命を落とされた方は数知れず、中東・イランをめぐる情勢も依然として先行きが不透明な状況です。 このような混迷する世界情勢だからこそ、平和への取組はいっそう重要性を増していると感じます。住民と協働で進める平和事業は全国の自治体でも展開されていますが、本町として今後の平和事業をどのように推進していくのか、以下の点について伺います。 (1) 今年度の幕別町の平和事業は。また、住民と共に進める平和事業は。 (2) 帯広市では核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会を組織して年間を通して平和活動に取り組んでいるが、本町としての考えは。 (3) 教育委員会における今後の平和教育の推進方針について伺う。あわせて、学校教育の一環として体験的活動の位

2 障がいのある方の重度化や高齢化、「親亡き後」を見据えた、障がい者支援について

置づけは。

現在、身体や知的に障がいのある方は、厚労省の発表では2022年時点で全国に約1,164万人、人口の約9.3%に上ります。しかし、入所施設やグループホームの定員は限られており、多くが自宅で生活しています。重い障がいを抱えていても、家族の献身的な介護によって在宅生活を維持しているケースも少なくありません。

「自分たちが年老いて介護ができなくなったり亡くなったりした後、この子はどうやって生きていくのか。本当に心配でならない」という切実な声が上がっています。誰しも老いは避けられず、「親亡き後の暮らし」を社会全体でどう支えていくかは喫緊の課題です。

障がい者が地域で安心して暮らし続けるためには、地域の関係機関が一体となって支援体制を強化することが不可欠であり、その中核となるのが「地域生活支援拠点等」と考えます。そこで、以下について伺います。

- (1) 本町では、「地域生活支援拠点等」は東十勝圏域で共同整備されているが、その整備状況は。
- (2) 直近で町に寄せられる相談件数は。
- (3) 現在把握している直近の町内の障害者施設への入所状況は。

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。